

活動テーマ **地域とともに暮らしを支える組織づくり**

滋賀県 社会福祉法人 達真会
〒522-0322 犬上郡多賀町大字佐目675番地 TEL. 0749-49-8030 FAX. 0749-49-8033

取り組み内容のポイント
滋賀県多賀町の高齢化率は31.8%（平成26(2014)年7月現在）。
うち施設がある佐目は、山間地域に位置し高齢化が著しく進んでいる状況である。
地域だけで支えきれない隙間を埋める活動に地域とともに取り組む。

活動内容
●活動開始年
平成17(2005)年4月
●活動の対象者
地域の高齢者、住民、施設利用者、職員の家族
●活動の頻度・時間
月1回 2時間程度 / 必要都度

取り組みの定款・事業計画上の位置づけ
①定款記載の有無 記載していない
②事業報告・計画への記載 記載していない

法人設立年
平成12(2000)年
法人実施事業
①経営施設数合計：2施設
②経営施設・事業【種別毎の数】：
・特別養護老人ホーム 2か所
・短期入所（予防短期入所）生活介護 2か所
・通所（予防通所）介護 1か所
・居宅介護支援事業 2か所
・認知症対応型共同生活介護施設 1か所
・委託事業 1か所
法人の理念・経営方針
法人運営指針「向上心を持つ人の夢を叶える職場でありたい」
行動指針 1. 仕事と生活に目標を持つ
2. 目標を達成するために努力し続けよう
3. 「きっと出来る」「必ず出来る」と信じよう
運営理念「できること」の自立支援から「やりたいこと」への生活支援

取り組みを実施している施設の概要
【施設名】
・高齢者介護総合福祉施設
多賀清流の里
【施設種別及び利用定員】
・特別養護老人ホーム……………定員50名
・短期入所（予防短期入所）介護……………20名
・通所（予防通所）介護……………35名
・認知症対応型共同生活介護施設…定員9名

活動実施の背景、実施にいたった理由

平成13(2001)年に開設した当初は、施設というイメージは過去あまり良い印象を誰もがもっていなかった時代。よく耳にすることは、「こんなところに来たらしまいや」「かわいそうな人が入るところや」といったマイナスイメージである。しかし、施設はそのマイナスイメージから脱却しようとまず取り組まなければならない。

施設と地域住民がともに暮らすために地域住民の方へ施設の理解を得る取り組みが必要である。まず、地域の方がいきいきと暮らせる町づくりを考える。また、年を重ねながらいつまでも輝いて欲しいという思いから活動を開始する。

また、当地域は独居生活、老老介護者が多く暮らしている。地域の現状を把握した上で社会福祉法人として地域活動へ参画することで地域協働で支え合える関係づくりが必要である。地域活動に施設職員が参画することで地域住民との信頼関係を築き、何かあれば施設へ行けば助かるという関係づくりが必要。山間部に位置する当施設を利用していただき地域との協働が必要である。

実施内容
「できることはなんだろう」から考え、施設側の思いを

発信。まず地域に情報発信するための「山里め〜る」といった元気になる秘訣を中心に気楽に読める新聞を施設開発時から5年間発刊。新聞を毎月発行し地域周辺住民の方の協力を得て町内配布を実施する。マイナスイメージを持っている地域の方に施設へ来ていただく取り組みを考える。「気軽に来れる」きっかけを実施。コンセプトは【たっしゅ】「(た)れ(誰)もが」「(つ)どい」「(し)りたいたいことや」「(や)りたいたいこと」をみつけて達者に暮らそう。

次の取り組みは、地域の方が出かけられる居場所づくり、誰かと一緒に過ごす時間のきっかけをつくるために“山里茶屋”と称する喫茶を施設で開店する。

地域住民と関係を深めていくに当たり、施設の持っている資源活用と地域と協働する活動が必要である。地域住民が施設に対し理解を深めていくなか、自治会からの希望もあり、自治会まちづくり委員会への参加や自警団への入団。高齢者が多い地域による助け合い活動の実施につなげる。

活動効果 (利用者や職員、地域などの反応、影響)

活動実施から、外出することに消極的であった地域の方が出かけられる。施設を知らなかった時のイメージと施設を知ってからのイメージが変わりデイサービスを利用する。家から出ること知人との面会が施設でできるきっかけになる。「山里め〜る」発送までに仕分けなどを手伝い助けてくれるなど、地域の方が必要な存在になり、より良い関係づくりにつながる。また、地域のボランティアの協力でおやつ作りやお茶の用意をするなど職員との顔の見える関係づくりができていく。

地域住民の施設に対するイメージがプラスに変わり、信頼関係が築けた結果、地域住民からの希望で施設職員が自治会に参加している。施設が地域に受け入れられた瞬間でもある。自治会は顔見知りの関係性から地域の思いを施設が知るきっかけにもなる。また、地域の方が施設を支える協働の関係が築ける。現在、夏まつりは地域と施設で共催し、地域と施設から実行委員会を選出し地域からの活発な意見・経験など積極的に取り入れ、より良い関係性を築いている。

今後の展開

地域と施設が互いに「頼もしい場所」になるために、顔見知りになる・緊急通報システムの協力員・避難訓練（災害時の協力）活動も含め、これから私たちができる地域資源を考えていく。地域の方が今以上に施設に相談に来れる関係づくり、また施設の地域交流スペースの利用など施設の資源を地域の方が気軽に使用できる取り組みを考える。

高齢化率が高い地域であるからこそ施設の存在が地域に必要であり、地域を支えられる活動、運営を考える使命がある。

主な経費や財源及び人員など	
• 取り組みに係わった職員数	7名 (職種等：管理職・事務職員・介護支援専門員)
• 取り組みを実施している施設の事業規模 (平成25年度決算の事業活動収入)	466,922,290円
※法人全体の事業規模 (同上)	866,746,997円



地域交流スペースの活用



地域の方と夏まつり準備